

# 歯科・口腔外科 臨床研修到達目標（必修）

## 1. 特徴

歯科口腔外科は抜歯を中心とした口腔に関わる外科的な治療を主に行っております。埋伏智歯などの困難抜歯をはじめ顎関節症、蜂窩織炎などの急性炎症、骨折、歯牙損傷などの外傷、囊胞性疾患、口腔悪性腫瘍、顎変形症、インプラント治療などが診療対象です。

顎関節症に関しても最先端の診療機器を生かした高度な医療を提供できるよう努力し、特に顎変形症例は矯正歯科医師との連携により、多くの外科矯正手術を行っています。

周術期に口腔管理に力を入れています。口腔環境を整えることで、口腔とは直接関係しない疾患の治療の予後を良くするという考え方です。

全身疾患を有する有病者については、医科大学病院の特徴を生かし、関連各科と連携を密にした治療を行っています。

## 2. ねらい

歯科口腔外科の対象疾患ならびに基本的治療法を理解し、診療に必要な顎口腔領域の解剖学的知識を身につける。

## 3. 到達目標

### (1) 診察法

- 1) 歯、歯肉、舌、口腔粘膜、顎関節、唾液腺の異常の有無を指摘できる。
- 2) 顎下、オトガイ下、頸部リンパ節の異常を指摘できる。
- 3) 顔面外傷の所見を記述し、歯、軟部組織の損傷や骨折の診断ができる。

### (2) 検査法

- 1) パノラマX線写真を読影し、主要変化を指摘できる。
- 2) 顔面、頭部、頸部のCT、MR像の主要変化を読影できる。
- 3) 歯型モデルの採取ができる。

### (3) 基本手技

- 1) 顎顔面外傷の創傷処置ができる。
- 2) 口腔内出血に対する止血処置ができる。
- 3) 顎骨骨折に対する応急的対応ができる。
- 4) 顎関節脱臼の徒手的整復術が行える。

## 4. 研修方略

研修医一人に指導医一人が全般に渡る研修指導を行う。症例検討会において、症例呈示により担当する症例に対しての理解を深めさせる。

主に外来では、抜歯を中心とした小外科処置の見学を指導医のもとに研修に携わってもらう。また専門的に行っている顎関節造影検査を研修してもらう。入院症例は、主に顎変形症例治療の流れ、手術見学、口腔領域の術後の管理の特殊性について研修してもらう。

研修では、特に口腔という特殊な領域に関する画像診断、口腔粘膜疾患の診断、外傷の応急処置、基本的な咬合異常の理解、顎関節疾患の治療法、歯性病変と全身疾患との関わりについて研修が可能である。

## 5. 週間スケジュール

	午前	午後	他
月	外来 病棟	外来 手術	
火	外来 病棟	外来 手術	
水	外来 手術 病棟	病棟	
木	外来 手術	手術 症例検討	
金	外来 病棟	外来	
土	外来 病棟		

## 6. 研修評価

- 1) 自己評価：PG-EPOC を用いて自己評価を行う  
(症候、疾病・病態の経験については PG-EPOC にて確認を行う)
- 2) 指導医による評価：PG-EPOC を用いて研修医を評価する  
(症候、疾病・病態の経験については PG-EPOC にて確認を行う)
- 3) 研修医による研修体制評価：PG-EPOC を用いて診療科全体（指導内容、研修環境）を評価する

## 7. 指導体制

指導責任者 長谷川 温

指導 医 長谷川 温

上級 医 齋藤 礼、大出 有佳子、勝又 鈴歌

# 歯科・口腔外科 臨床研修到達目標（選択）

## 1. 特徴

歯科口腔外科は抜歯を中心とした口腔に関わる外科的な治療を主に行っております。埋伏智歯などの困難抜歯をはじめ顎関節症、蜂窩織炎などの急性炎症、骨折、歯牙損傷などの外傷、囊胞性疾患、口腔悪性腫瘍、顎変形症、インプラント治療などが診療対象です。

顎関節症に関しても最先端の診療機器を生かした高度な医療を提供できるよう努力し、特に顎変形症例は矯正歯科医師との連携により、多くの外科矯正手術を行っています。

周術期に口腔管理に力を入れています。口腔環境を整えることで、口腔とは直接関係しない疾患の治療の予後を良くするという考え方です。

全身疾患を有する有病者については、医科大学病院の特徴を生かし、関連各科と連携を密にした治療を行っています。

## 2. ねらい

歯科口腔外科の対象疾患ならびに基本的治療法を理解し、診療に必要な顎口腔領域の解剖学的知識を身につける。

## 3. 到達目標

### (1) 診察法

- 1) 歯、歯肉、舌、口腔粘膜、顎関節、唾液腺の異常の有無を指摘できる。
- 2) 顎下、オトガイ下、頸部リンパ節の異常を指摘できる。
- 3) 顔面外傷の所見を記述し、歯、軟部組織の損傷や骨折の診断ができる。

### (2) 検査法

- 1) パノラマX線写真を読影し、主要変化を指摘できる。
- 2) 歯科用デンタルX線写真の撮影ならびに主要変化を指摘できる。
- 3) 顔面、頭部、頸部のCT、MR像の主要変化を読影できる。
- 4) 歯型モデルの採取ができる。

### (3) 基本手技

- 1) 顎顔面外傷の創傷処置ができる。
- 2) 簡単な歯の抜歯ができる。
- 3) 口腔内出血に対する止血処置ができる。
- 4) 顎骨骨折に対する応急的対応ができる。
- 5) 顎関節脱臼の徒手的整復術が行える。

## 4. 研修方略

研修医一人に指導医一人が全般に渡る研修指導を行う。症例検討会において、症例呈示により担当する症例に対しての理解を深めさせる。

主に外来では、抜歯を中心とした小外科処置の見学を指導医のもとに研修に携わってもらう。また専門的に行っている顎関節造影検査を研修してもらう。入院症例は、主に顎変形症例治療の流れ、手術見学、口腔領域の術後の管理の特殊性について研修してもらう。

※週間スケジュール・研修評価・指導体制は必修と同様